

九月九日は、節日にて侍れば、菊花の宴行はる、也、是を重陽宴と申す、九月九日は、月と日と九陽の數に叶がゆゑに重陽とはいふ也、昔は天子南殿に出御なりて節會行はる、上達部御子たちよりはじめて、其道のはみな探韻給はり、文つくりて、文臺にすゑてかうせらる、十月旬のみにあらず、今日も水魚を給ふ例あり、又群臣に菊酒を給はり、大かたは五日月五の節會に同じ、御帳左右に茱萸の囊をかけ、御前に菊瓶をおく、

〔後水尾院當時年中行事上九月九日、毎事三月五月等の節供に同じ、夕方の御祝より女中の衣しやう二ツゑりなり、うはぎは猶すゝしのうらを用ふ此事ふ三獻めのてうしにきくの花をきざみ入、けふも一首の懷紙おのゝ、詠進す、七夕に同じ、重陽の宴の心なり、舊院の御とき、九首の事あり、其後また一度あり、けふも講せらる、まではなし、

〔年中行事歌合〕二十七番 左 重陽宴

内大臣

きくもみち折しくひ魚を取そへてけふたまふなるみきのさかづき略○中

左、九月九日せちゑにて侍れば、菊の花のゑんをおこなはれけるなり、此重陽と申は、九をば陽數なるよし、易にも申なり、月も日も九なれば重陽といふなり、詩などかうせられて、いとおもしろき事なり、今日ぐんしんにひを、給ふ事ためしあるにや、なべては十月の旬にこそひををば給ふべきに、此せちゑにもためし有事にや、

〔江家次第正月〕節會雨儀 重陽 立文臺於承明門西第二間、博士應召、經東西廊及春興宜陽兩

殿砌參上、式部輔取文臺宮等上、又同侍從、帷依例設春興殿、文人帷設安福殿、

節會雨儀 重陽宴 文人在安福殿座

進題并講詩之時、有召參上、道經南廊并春興殿、日華門宜陽殿、如公卿道、文臺立安福殿東壇上、式部輔取宮參上、道如上、舞妓如七日、